

慶應義塾大学文学部 3つの方針

【人文社会学科・美学美術史学専攻・学士（美学）】

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）

〈教育目標〉

慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、古今東西の美と芸術に関する様々な知識と研究方法を修得しながら、優れたコミュニケーション能力を有し、人間を尊重し、自らと他者を理解することによって多様な価値を認める深い人間性を養う。また、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し、社会の各方面に貢献できる人材となることを目標とする。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、学士（美学）の学位を授与する。

〈資質・能力目標〉

資質・能力目標(1)： 美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。

資質・能力目標(2)： 芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。

資質・能力目標(3)： 美学や各芸術分野についての文献講読を通して、基本的な外国語・日本語（古典）の読解力を身につける。

資質・能力目標(4)： 研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる力。

資質・能力目標(5)： 各研究会での研究・発表等の活動に積極的に参加し、適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆する力。

〈卒業論文における審査項目〉

学修の最終成果である卒業論文は次の審査項目を満たすものとする。

1. テーマ・問題意識が明確である。
2. 先行研究を踏まえている。
3. 方法が目的に適っている。
4. 内容が論理的で一貫している。
5. 形式が学術論文として適切である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

〈教育課程の編成〉

文学部人文社会学科美学美術史学専攻（学士：美学）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、専門教育科目から構成される教育課程（カリキュラム）を体系的に編成する。

〈教育課程の実施〉

この教育課程の編成のもと、以下の教育法を組み合わせる教育を実施する。

- (1)美学・芸術学、美術史学と音楽学、アート・マネジメントなどの芸術諸分野にわたる多様な科目群を設置することで、美と芸術に関する基礎的かつ包括的な知識と問題意識の獲得を目指す。
- (2)自ら課題を見出し、その解決を目指す能力を身につけるため、講義科目、演習科目、フィールドワーク（美術館、博物館等における見学・調査）などにおいて、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。
- (3)知的探求と実践力の育成のために、専攻の必修科目とともに、大学設置の専門教育科目を選択科目として履修する機会を設ける。

〈学修成果の評価方法〉

本専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価される。具体的には、①学生による授業評価、②入学経路別成績分布調査、③休学や退学の状況、④プレイスメントテストなどを用いる。

〈資質・能力目標と教育内容との関係〉

資質・能力目標(1)： 美学、芸術学、美術史学、音楽学、アート・マネジメント等、美と芸術に関する各分野の学問に関して、本質的で幅広い知識と教養を身につける。

→ 美学や芸術学、芸術の諸分野、そしてアート・マネジメントに関する概説と各論等、多様な授業を設置する。

資質・能力目標(2)： 芸術の諸分野についての基礎的教養を身につけ、あわせてイメージやパフォーマンス等の非言語的対象を把握し、それを適切に言語化する基本的リテラシーを身につける。

→ 芸術の諸分野に関する概論、概説、各論等に加え、主に第2学年を対象とした「芸術研究基礎」や「美学美術史学演習」において、基礎的な専門用語や概念を理解し、作品記述の方法を身につけることで、非言語的対象を言語化するための基本的リテラシーを養う。

資質・能力目標(3)： 美学や各芸術分野についての文献講読を通して、基本的な外国語・日本語（古典）の読解力を身につける。

→ 芸術の諸分野についての十分な学問的アプローチを可能にするため、外国語（英語・第2外国語）・日本語（古典）のリテラシーを身につけることを目的に、「原典講読」を必修科目として履修する。

資質・能力目標(4)： 研究テーマに応じて適切な情報の収集と分析を行い、科学的・論理的に思考し、批判的に考えることができる力。

→ 「芸術研究基礎」や「美学美術史学演習」において、基本文献や研究方法、資料の扱いなどを学び、「美学美術史学研究会」におけるディスカッションや研究発表の実践を通じて、情報収集の方法と分析、科学的な思考能力を養う。

資質・能力目標(5)： 各研究会での研究・発表等の活動に積極的に参加し、適確な文章をもって、学問的な評価に耐えうる卒業論文を執筆する力。

→ 第3、第4学年の学生は、必ず「美学美術史学研究会」を履修し、同研究会の担当教員の下で研究・発表を行い、第4学年の学生は卒業論文を執筆する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）

〈求める学生像〉

- (1)慶應義塾の精神に対する十分な理解、および学問に対する意欲と向上心を持つ。
- (2)先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力（日本語、および英語・フランス語・ドイツ語）を身につけている。
- (3)与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力を有する。
- (4)現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識（日本史または世界史）を持つ。
- (5)文学部が設置している専攻（哲学、倫理学、美学美術史学、日本史学、東洋史学、西洋史学、民族学考古学、国文学、中国文学、英米文学、独文学、仏文学、図書館・情報学、社会学、心理学、教育学、人間科学）が対象とするいずれかの学問に対する関心・好奇心を有する。

〈選抜の基本方針〉

このような入学者を幅広く受け入れるため、(1)一般選抜、(2)自主応募制による推薦入学者選考、(3)外国人留学生対象入学試験により選抜を実施する。

(1)一般選抜

外国語・地理歴史・小論文の三科目の試験による選抜であり、文学部にふさわしい高い学力を要求する。

(2)自主応募制による推薦入学者選考

高等学校で一定の評点に達していることを条件に、在学中の活動実践や社会的活動をも加味した総合的な考查によって選抜する。

(3)外国人留学生対象入学試験

学業成績と勉学意欲を勘案した選抜を行う。